



日本のバイエル100周年特別企画

わくわく実験びっくり箱 2011

地域と共にある企業を目指して

Bayer in Japan 100th Anniversary Special Project
Making Science Make Sense 2011
Strengthening Our Bonds with the Community



日本のバイエル100周年特別企画として「わくわく実験びっくり箱」を実施した。100周年の感謝を込めて、日本のバイエルの拠点がある防府、尼崎、滋賀、東京の4地域にある小学校で行った。その様子をレポートする。また、地域と企業の関わりについて、滋賀県甲賀市立油日小学校の西村教頭と、滋賀工場の片山工場長に話を伺った。

To mark its centennial, Bayer in Japan hosted Making Science Make Sense programs at four elementary schools in June in the communities where Bayer sites are located. Here's a look at how such visits express Bayer's appreciation to the community.

ふしぎからはじまるサイエンス

Making Science Make Sense

「ふしぎからはじまるサイエンス」は、体験・質問型の理科学習を通して、次世代を担う子どもたちの科学的な好奇心を高め、日常生活の中における科学の発見の楽しさを伝え、科学の理解力向上を図ることを目的としたプログラム。1992年、米国バイエル社で「Making Science Make Sense (MSMS)」として始まった。このプログラムをモデルに、日本のバイエルでは2002年から「ふしぎからはじまるサイエンス」をスタートした。

日本における「ふしぎからはじまるサイエンス」の主軸となる「体験・質問型理科実験教室 わくわく実験びっくり箱」は、2003年より実施している。これまで全国の小学校計35校を訪問し、延べ241名のバイエル社員がボランティアとして参加した。

地域と企業のつながり

Interview



人と人の関わりが 地域への愛着を育む

Personal interaction cultivates fondness for the community

滋賀県甲賀市立油日小学校 教頭 西村 忠三先生

Chuzo Nishimura, Vice Principal, Aburahi Elementary School (Koka, Shiga)

——今年、日本のバイエル100周年記念として、バイエルの拠点がある地域の小学校で「わくわく実験びっくり箱」を実施しています。今日の実験はいかがでしたか。

まずは、100周年おめでとうございます。また、100周年という御社にとって記念すべき時に、本校で実施していただきましたことに感謝申し上げます。

本日の「わくわく実験びっくり箱」で、子どもたちは普段できない体験をさせていただきました。今回のテーマである「電気」は目に見えないものですが、備長炭やラジオなど身近なものを使って実験し、五感で「電気」を体験できたことで、心に残る授業になったのではないのでしょうか。

今の子どもたちは便利なものに囲まれ、実際に触れたり実験したりといった原点的な体験がいま理解した感覚になっているように思います。例えば、備長炭で電池を作ることができることを知っている子どもがいても、よほど興味があるか、保護者や学校が準備をしないと実際に実験をす

ることはありません。実際、普段の授業で一人の担任がクラス全員の実験をサポートするのは難しいのが現状です。今回、多くのスタッフの皆さんに子どもたち一人ひとりをサポートしていただき、実験できたことは意義深いものだと思います。楽しく授業を進められる湯浅先生を見て、普段の自分の授業を振り返る良い機会にもなりました。

——課外活動の一環でバイエルの滋賀工場を見学されたそうですが、子どもたちが地元の企業について学ぶことはどのような意義があるとお考えですか。

当校では年に一回、校外で学習する機会を設けています。テーマは学年ごとに異なり、3年生は地域、4年生は森林、5年生は産業について地域の企業や団体から学びます。バイエルさんの滋賀工場は、3年生の地域学習の一環として見学させていただきました。

甲賀町は昔から「くすりのまち」として医薬品

産業が発展してきました。地域にはバイエルさんをはじめ、多くの製薬関連の工場があります。工場産業である製薬関連の工場で薬の歴史などを学ぶことが、地域理解につながります。そのことによって地域への愛着を持つことを期待しています。実際に工場の中で働いている人の姿を見ることは職業教育にもつながり、地元で働くことに対する子どもたちの意識も変わると考えています。

——今後、地域と企業の関わりについて期待することは何ですか。

企業の方はその分野の専門家です。その専門家から学ぶということは、学習自体が奥深いものになりますし、子どもたちの記憶にも残る良い経験になります。初めて出会う大人に対し、子どもたちが自分を表現することも意味があるでしょう。これからもぜひ企業や工場の方々に来校していただき、専門的なことを教えていただきたいですね。

多くの企業が、工場見学の受け入れなどの社会貢献活動に取り組まれています。地域と企業が関わることは「人と人をつなぐ」という意味で非常に重要です。人を知り、人と話し合うことを通して地域を知り、つながり合える。さらに、地域を知るということは、子どもたちだけでなく教員にとっても意味があるでしょう。地域とつながり、地域への愛着を持つことで、地域を盛り上げていけるとよいと思います。

防府

6月7日

山口県防府市立向島小学校
ポン菓子作りで分かる！
空気と水の不思議



尼崎

6月15日

兵庫県尼崎市立杭瀬小学校
シャープペンシルを使用した
発明王エジソンの
電球づくりに挑戦



滋賀

6月20日

滋賀県甲賀市立油日小学校
化学反応で電気が起きる
仕組みを学び、地球の
エネルギーについて考える



東京

6月27日

東京都葛飾区立中之台小学校
珊瑚と二酸化炭素の
関係を学び、生物と
地球環境について考えよう



参加した社員の コメント

写真左から
PSJ 大阪オフィス
古賀 寛子
管理 小澤 和彦
第一製造 北澤 純



地域との
つながりを
感じた1日

写真右から
品質管理 石井 一二三
サプライチェーン
萩原 秀昭
品質保証 湯浅 敦
生産技術 中川 真理子



地域の子どもの
成長のために
できることをしたい



「地域への恩返し」の意識を忘れず 夢や感動を与えられる企業を目指す

Aiming to be a company that repays the community with dreams and excitement

バイエル薬品 滋賀工場長 片山 博仁

Hirohito Katayama, Head of Product Supply Japan, Bayer Yakuhin, Ltd.

——滋賀工場は、普段からどのように地域と連携を取っているのでしょうか。

定期的に地域の小・中・高校の社会見学の場として年間約5校の工場見学の受け入れを行っています。また、年に一度、地域の自治会や企業の方々を招き、地域コミュニケーション会と称した工場見学会と環境への取り組みを紹介しています。さらに、毎年10月に行われる甲賀市主催マラソン大会へ協賛。大会では「バイエル薬品」と書かれたゼッケンを着けたランナーで町がにぎわい、当工場が地元根拠した企業であることを実感します。1,500名の参加者一人ひとりのこの日のドラマ・思い出に、ささやかながらも関与できていることを喜ばしく感じます。

雇用面では当工場社員の7割以上が地元市民です。地元社員をはじめ当工場全員が社会貢献の精神を持って、社会生活全般で実践することで、住みやすい地域社会をつくると信じています。

——今回の「わくわく実験びっくり箱」や工場見学など、企業が地域と関わることにについてどのようにお考えですか。

工場見学で子どもたちにもものづくりの現場を紹介したり、科学理解力向上のための「わくわく実験びっくり箱」を実施することで、将来を担う子どもたちの育成に協力することは、地域の一員として当然の活動だと考えています。これまで当工場を訪れた地元小学校の先生からは「工場見学のおかげで子どもたちの間で『くすりのまち』としての誇りが芽生えているようです」とのうれしいお言葉をいただきました。

これらの社会貢献活動の目的の一つは、地域への恩返しです。滋賀工場がこの地に産声を上げることができたのも、地元を挙げての誘致・温かい応援があったからこそ。そのおかげで、バイエル医薬品の日本市場への生産拠点が確立し、高血圧・狭心症治療剤「アダラートCR錠」と、その小型化といった革新的技術の開発へとつながりました。

——今後、さらに地域と共存する企業（工場）となるために、どのような取り組みが必要だとお考えですか。

バイエルのミッションステートメントは“Science For A Better Life（よりよい暮らしのためのサイエンス）”。地域の皆さんもこのコミットメントの対象です。今後も、バイエル薬品ならではの特色ある活動を展開し、地域との関わりを深めていきたいと考えています。

一つには甲賀の地場産業である医薬品産業を盛り立てる一助となること。当工場も属する滋賀県薬業協会開催の情報交換会への参加や、講演会の講師役など積極的に情報を発信し、医薬品産業のさらなる振興に貢献します。

そして、地域の子どもの成長を見守り、夢や感動を与える企業であるべく、これまでの活動を継続していきます。

